

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第101回 ●

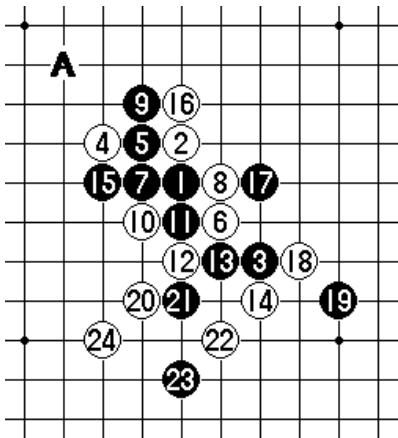
■ 珠王戦観戦

20年の珠王戦はチーム世界戦が5月ということ、関西での開催となった。せっかくなら出場したいとも思ったが、仕事の都合で週末が東京となつてしまい、不参加となった。しかし、今回は周りのメンバー（東京から来られた方も！）のご協力で中継をしていたので、東京で観戦することができた。棋譜と写真がアップされてきたので、またその場にいるような臨場感を味わえた。調子に乗って、遠隔で解説をして楽しむことができた。

今回はその中で面白い局を数局紹介していこう。

1回戦 黒 藤田三段

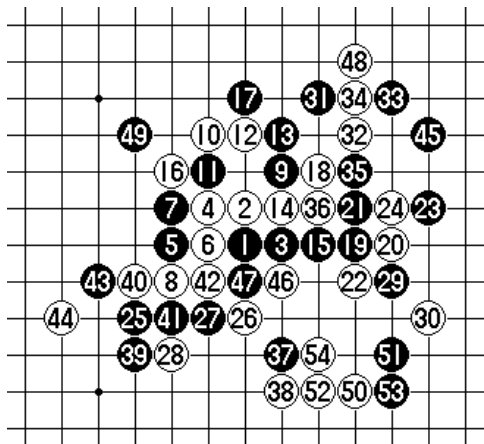
白 勝河野五段
白24にて黒投了



九州からわざわざ参加してくれた河野君。藤田さんとの一戦は大注目だ。藤田さん得意の遊星が始まった。黒5は少々黒苦戦を覚悟しなくてはならないのだが、黒13は一路下だったろうか？ただ、白14も少し甘着で、15に引いておきたかった。黒15に石が入っては、黒も楽しみが出てきた。白16に黒17は弱気だった。Aから攻めたかったし、せめて20の方から叩きたかった。白18に打たれては防戦に回るしかないが、黒21が一手ばつたりの手だった。ここは22から叩いておけ

ばまだこれからの戦いだつた。

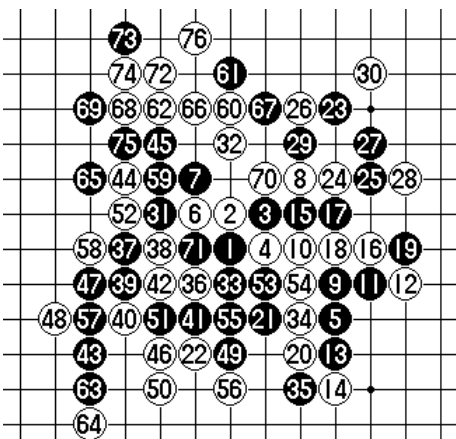
2回戦 黒 中村名人
白 勝岡部八段
白58以下白勝ち



2回戦で中村名人が敗れる波乱。最初白が中村名人の表記だったのでさすがの打ち方と感心したが、岡部君が白だった。白10、12などなるほど、という打ち方だ。善悪は別として堂々としている。以下黒は31など妙手を駆使したのだが徐々に苦しくなっていた。白

50に手を回し、見事に白勝ちを出してしまった。中村名人がこういう負け方をするのは珍しいが、時間の短い大会ではさすがに年齢による間違いも起こるだろう。

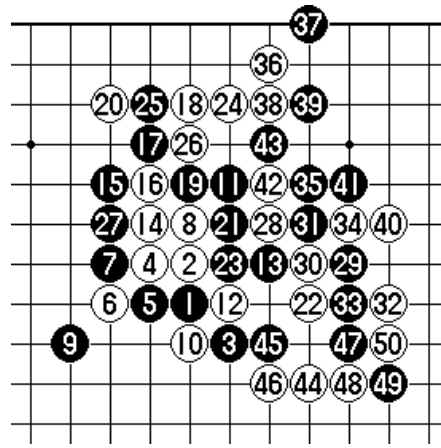
3回戦 黒 神谷八段
白 勝中山八段
白76にて黒投了



今回中山君は充実していた。危なげなく全勝優勝を飾ったように見えた。本局も白22とすごい展開を見せた。神谷君も負けじと黒23と独自の構想を見せるが、結局、外に回っていた

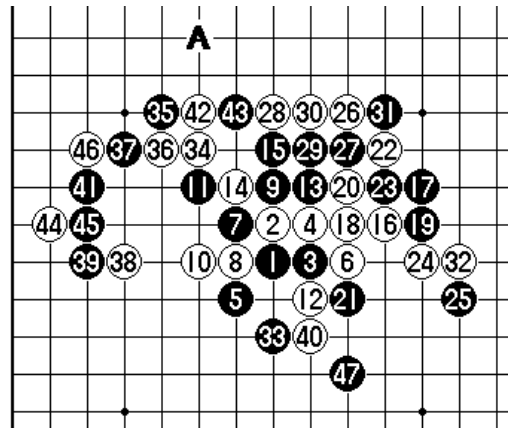
白がじわじわ優位を拡大し寄せて来た。

4 回戦 黒 牧野初段
白勝 神谷八段
白 50 にて黒投了



牧野さんは実質1年で堂々の出場。成績も五分の星を残した。神谷君に真剣勝負を挑んだ。白28までは互角の流れだったが、黒29が異筋だったか。ここは左辺で攻めるチャンスだった。中盤以降の打ち方が牧野さんの課題だが、強い人と当たることによって急速に上達することだろう。

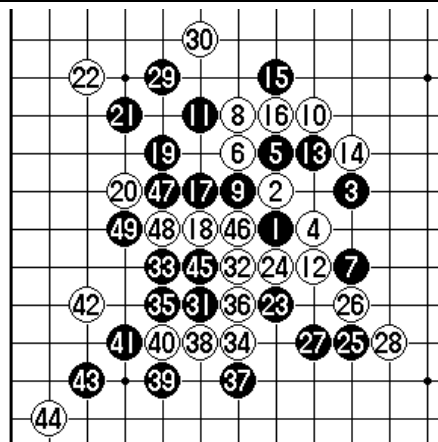
5 回戦 黒 岡部八段
白 神谷八段
黒 47 にて満局



お互い中山君に負けて2番手争いをしてしている両者。ここは是非とも勝っておきたいところ。その意識がそうさせたのか、負けないように打ち進めていった。黒が少し厚いように思われたが、黒47で満局とは？
どう見ても白Aと黒の四々禁を狙って白勝ちがある。私も解説で黒は上辺の手を抜けない、と言ってお

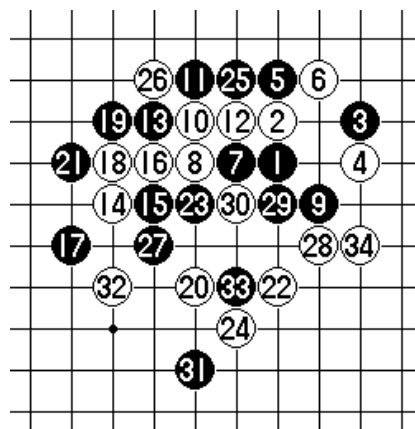
り、黒47と手を抜かれたのにはびっくりした。神谷君も気が付かなかったようである。

5 回戦 黒勝 中山八段
白 中村名人
黒 49 にて白投了



一番の見所である中山、中村戦を見てみよう。白8の作戦は名人らしいが、黒は必死で手を作っていく。黒31がいい手で、33と長連筋に打つても、35と打てばうまく使えている。最後に47で回収してしまつたのはさすがの打ち方だ。

6 回戦 黒 河野五段
白勝 中山八段
白 34 以下白勝ち



最後に中山君が全勝を決めた一局を。この局も凄いなら黒が外に回れるので黒が十分と思われるが、白14から逆にここで攻めに行つた。そして白20、22、24の展開がまた素晴らしい。黒27はとりあえず一路下で利かしておきたかった。とにかく中山君は凄く充実していた。このままチーム戦に突入してもらえば十分世界でも戦えると思う。